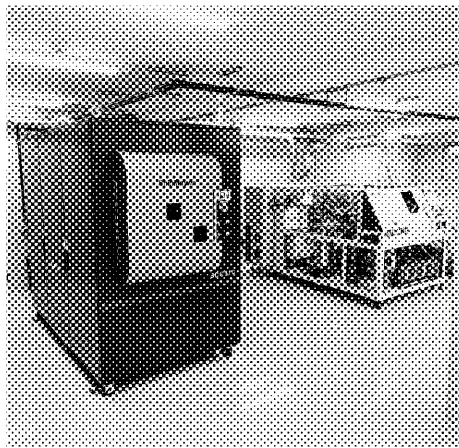


東住吉工場、産学拠点に

東研サーモダイヤ成膜高機能化

東研サーモテック（大阪府寝屋川市、川寄隆司社長）は、東住吉工場（大阪市東住吉区）を金属成膜の産学連携研究開発（R&D）拠点に転換する。2025年夏までに、ダイヤモンドライクカーボン（DLC）などのR&D用成膜装置3台を導入する。24年1月にはDLCとダイヤモンド・コーティング（DC）の各装置も設置済みで、これらを含む総投資額は5億円。大学や大手メーカーと協力し、DCなど高機能な成膜の実用化と用途開拓を目指す。

東研サーモテックは、東住吉工場にR&Dドライコーティングと拠点を据え、産学連携で成膜の技術開発や用途開拓を図る。25年4月にDLCと物理気相成長（PVD）の各装置を、同年夏にDLC



東住吉工場に設置したR&D用DC装置

も兼ねるPVD装置を導入する。24年1月に導入した装置2台を含め、DLCやDCなど高度な成膜装置5台を同工場にそろえる。DLCはダイヤに次いで硬く、金型や切削工具などの金属に成膜すると、耐摩耗性や寿命が格段に高まる。DCは最も硬く、究極の成膜となる。いずれも成膜しにくい難点を克服してきたが、高コストなど多くの課題も残り、用途は限られる。そこで東住吉工場で複数の大学や顧客、素材のメーカーと連携しR&Dを始めた。短時間で加工でき、技術評価もしやすいR&Dに適する成膜装置を中心に駆使する。例えばDCはDLC比10倍とされるコスト、ダイヤ粒子による表面の凹凸、一部の超硬合金にしかできない成膜など事業化の壁が高い。連携先と知見を融合し、技術で克服したい考えだ。

東研サーモテックは自動車などの金属部品を熱処理で創業した。電気自動車（EV）の市場拡大から、ドライコーティングへシフトを図っている。東住吉工場はかつて本社だったが、25年に生産を終

服してきたが、高コストなど多くの課題も残り、用途は限られる。そこで東住吉工場で複数の大学や顧客、素材のメーカーと連携しR&Dを始めた。短時間で加工でき、技術評価もしやすいR&Dに適する成膜装置を中心に駆使する。例えばDCはDLC比10倍とされるコスト、ダイヤ粒子による表面の凹凸、一部の超硬合金にしかできない成膜など事業化の壁が高い。連携先と知見を融合し、技術で克服したい考えだ。

「第2創業の出発点」と位置付けR&D拠点を転換し、拠点名も「イノベーション事業部」に刷新する。